

多様性の一致

春名昌哉 神父

私の趣味は鉄道に乗って旅をすることです。日本各地を回りながらのんびりとした時間を過ごし、また訪れた先の名物を食べるなどが楽しみです。日本各地を回っていると初めて出会うものがたくさんあります。景色も食べ物も文化も自分の住んでいる地域とはまるで違うものに出会うこともあります。知らなかったものとの出会いによって、私たちの心はさらに豊かになります。今日はこのような出会いを通して私が感じた平和への道を、皆様と分かち合いたいと思います。

司祭になった今は、鉄道に乗ってゆっくり旅をする時間も少なくなりましたが、少しまとまった休みがもらえると、鉄道に乗りに出かけます。私は子どもの頃から鉄道に乗るのが好きで、あちこちに出かけていました。今では鉄道趣味も市民権を得るようになり、テレビや雑誌でもよく取り上げられるようになりました。その中でも鉄道好きを色々と分類していますが、私はいわゆる乗り鉄です。各駅停車に乗って窓から見える景色を眺めながら全国各地をまわります。私にとって何とも言えない至福の時です。

日本は狭い島国だとよく言われますが、鉄道に乗って旅をしていると狭い国だからといって画一化されていないことに気づきます。地方によって文化は異なり、また多くの方言があり、それを聞きながら旅をするのも楽しみになっています。あるとき、とある地方の県境を越えたとき、それまで車内で話されている言葉が聞き取れていたのに、突然わからなくなるという経験を何度もしました。また、食べ物も地方によって異なり、自分の住んでいる地域では食べられていないものを食べるところもあり、恐る恐る食べてみると、美味しかったということも度々ありました。皆様も同じような経験をされたことがあるのではないのでしょうか。

確かに日本は狭い島国ですが、その文化は多様性に満ちています。同じ国でありながら多様な文化を持ち、それを体験することは実に楽しいものですし、私たちの心をより豊かなものにしてくれます。その文化はお互いに対立するのではなく、お互いに与え合い、受け入れあうことで国全体の文化をより素晴らしいものにしてきているのです。

日本だけでもこれだけ多様な文化があるのですから、世界に眼を移せばさらに多くのものが存在しています。それぞれの国や民族にとって、先祖から受け継がれてきた文化を大切に守ることは当然のことです。

しかし文化は時には分裂や対立をもたらすこともあります。自分たちの持っている文化を相手に押しつけてしまうことがあれば、そこには反発が生まれますし、自分たちの文化のほうが相手よりも優れていると考え、当たり前のことですが、拒否反応を起こします。その結果、それが戦争へとつながってしまうこともあるのです。

私たちにとって大切なことは対話を通してお互いを受け入れあうことです。対話はお互

いの立場を理解しあうための第一歩です。対話を通して私たちは相手のことをよりよく理解することができるのです。自分と違うからといって排除するのではなく、相手の素晴らしさを、対話を通して見出し行くことが大切です。相手をよく知り互いに理解を深め合うことが、キリストの平和を地上で実現するために必要であると思います。

神さまは私たち人間を同じものとしては創られませんでした。人それぞれ性格や価値観は異なります。一人として同じ人間はいません。しかしそれこそが私たちに与えられた豊かさであり、お互いに与えあうことによってより一層、豊かものへと成長していきます。神さまは、私たち一人ひとりとは違っても、それによって一致することを望んでおられます。違いは分裂のためにあるのではなく、より素晴らしい世界を築いていくために一致するためのものなのです。

旅をしていて色々な文化に出会うとき、神さまの思いを感じます。それぞれが違っていても、お互いにそれを認め合っていくことの大切さです。この多様性の一致こそが、平和な世界を実現させるものとなります。